

『就実教育実践研究』第9巻 抜刷

就実教育実践研究センター 2016年3月31日 発行

養護教諭養成における看護臨床実習の現状と課題(1)

**The Current State and Issues of Nursing Clinical Training in Yogo Teacher
training course (1)**

郷木義子・森 宏樹

養護教諭養成における看護臨床実習の現状と課題 (1)

郷木 義子, 森 宏樹 (教育心理学科)

The Current State and Issues of Nursing Clinical Training in Yogo Teacher training course (1)

Yoshiko GOHGI and Hiroki MORI (Department of Educational Psychology)

抄録

本報告は養護教諭免許状取得のために必修とされている看護臨床実習に関してA大学において、1期生、2期生が終えた看護臨床実習の現状について報告し、養護教諭にとっての臨床実習の意義や新たな課題を見出し、今後、養護教諭養成における看護臨床実習に向けての課題を明確にし、より充実した実習へとつなげることを目的とした。

キーワード 養護教諭養成, 看護臨床実習, 現状, 課題, 学生の学び

I はじめに

学校教育法第37条に「養護教諭は、児童の養護をつかさどる」と規定されている通り、養護教諭は「養護をつかさどる」専門職として、児童生徒の健康や発達におけるニーズに寄り添い、救急処置活動から、保健教育、保健管理、連携・協働というコーディネーターなどの機能をもつ幅広い活動が求められている¹⁾。

さらに、児童生徒の健康問題は時代の変化とともにより多様化し、複雑さを増し、深刻化してきており、平成9年の保健体育審議会答申、平成20年中央審議会答申において、養護教諭は学校保健活動推進の中核的な役割が明確にされ、養護教諭の役割がますます重要になってきている。

養護教諭はその専門性から「医学と教育学の接点に立つ人間教育の重要な養護」をつかさどる教育職²⁾として果たす役割は大きい。養護教諭の専門性追究が始まったころ、小倉³⁾は養護教諭の専門性を①学校救急看護の機能 ②集団の健康管理の機能 ③教育保健における独自の専門的機能の3つの機能を統合したものである述べている。どんなに子どもの健康問題が変化しようとも養護教諭の専門的機能の一つである、救急看護の能力に関する資質は変わるものではない。

学校において最優先課題である、子どものいのちや安全を守るため、また近年の複雑化する健康問題解決のためにはより高度な医学、看護学の知識や技術が期待され、要求されており、これらの知識技術の修得は不可欠である。これらの資質能力を担保するために、

養護教諭免許取得のためには教育職員免許法において看護学10単位が必修とされ、その中には必ず「救急処置及び臨床実習を含む」とされている。しかし、養護教諭養成における臨床実習の位置づけは専門科目の必修として明確にされているが、各養成機関の特色の異なりなどから、実習機関、期間、内容等は各養成校に任されているのが現状である。各養成機関ではそれぞれの特色を生かしながらの実習を展開しており、その報告もなされているが⁴⁾⁻⁷⁾、どの先行研究においても医療機関での実習が養護教諭養成においてどのような実習機関、期間、実習内容がふさわしいのかは多くの課題が山積されていることは明らかである。

A大学ではまだ1、2期生の看護臨床実習を終えたばかりで、その成果や課題を明らかにするのは時期尚早とも考えるが、現状での学びを今後の課題とし、養護教諭養成における臨床実習の在り方を検討する基礎資料としたい。

II A大学における看護臨床実習の展開

1. 履修カリキュラムの現状と実習時期

現カリキュラムにおける養護に関する科目を表1にしました。看護臨床実習は3年次後期(2月～3月)に開講している。実習病院との関係や授業等の関係でこの時期に実施しているが、この時期はいずれの実習病院とも他の実習生(主に看護学生)の実習が終了しており、比較的指導を受けやすい時期でもある。また、ほとんどの学生が養護実習を経験しており、養護教諭への理解や意識が高まっており、臨床実習の学びを養護教諭の職務とつなげて考えることができる時期でもある。

さらに専門授業科目の履修もほぼ終了しており、疾患、救急処置、フィジカルアセスメント、病院組織、医療スタッフ、その他、病気を抱えながら生きること、人間の生や死など子どものいのちを守る養護教諭としてより深く理解でき幅広く視点を持つことができる時期でもある。

表1 養護に関する科目

1年次	2年次	3年次	4年次
養護学概論Ⅰ	衛生学	公衆衛生学	子どもの病気と薬
養護学概論Ⅱ	栄養学	健康教育論	
看護学概論	食品学	小児精神保健	
学校看護学演習	健康相談活動	薬理概論	
学校保健	解剖学	学校救急処置演習	
微生物学	生理学	看護学臨床実習指導	
	免疫学	看護学臨床実習	
	精神保健		
	小児看護学		
	フィジカルアセスメント		
	学校救急処置		

2. 実習機関及び実習内容

実習病院に関しても各養成機関によりさまざまであり、各自の自宅より距離の近い病院の選定などの方法がとられている養成機関の報告もあるが、A大学においては大学指定の特色の異なる5つの医療機関を実習機関として依頼し、看護臨床実習を実施している（表2, 3）。

各医療機関の特色は異なっているが、看護師としての実習ではなく教育職としての養護教諭のための臨床実習であることに理解を得た病院である。どの病院においても実習内容を工夫しながら熱心な指導を受けている。また、病院が作成した臨床実習計画の目的として「病院及び病院関連施設の組織、機能理解し、学校保健との連携を図る」、「臨床実習を通して、養護教諭としての学校保健活動を遂行できる能力を養う」など養護教諭の臨床実習としての目的を掲げて、各部署に徹底してくださっている病院もある。

また、特別支援学校と連携を保っている病院での実習も行っている。ここでは病気や障がいを抱えながら入院生活と学校生活を送る子どもたちとの関わりを持たせてもらっており、半日を特別支援学校での医療的ケアなどの見学実習に当てている（表3）。

表2 岡山赤十字病院での看護臨床実習内容

第1週								
月曜日		火曜日	水曜日	木曜日		金曜日		
学生	午前	午後	終日	終日	午前	午後	午前	午後
AB	全体オリ 病院概要 病院見学	病院実習 A オリ 看護ケア見学	病棟実習 A	学内実習	病棟実習 A	小児外科外来	リハビリ センター	検査室 DM 教室
CD		病院実習 B オリ 看護ケア見学	病棟実習 B		病棟実習 B			
EF		病院実習 C オリ 看護ケア見学	病棟実習 C		病棟実習 C			
第2週								
月曜日		火曜日	水曜日	木曜日		金曜日		
学生	午前	午後	終日	終日	午前	午後	午前	午後
AB	栄養科 DM 教室	薬剤部 放射線科	病棟実習 A	学内実習	病棟実習 A		病棟実習 小児科 緊急看護	反省会
CD			病棟実習 B		病棟実習 B	小児外科外来		
EF			病棟実習 C		病棟実習 C	小児外科外来		

表3 南岡山医療センターでの看護臨床実習内容

第1週								
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日
午前	午後	午前	午後	終日	午前	午後	午前	午後
病院の概要 病院見学 重症心身 障害児とは	つくし病棟 オリ	病棟実習	病棟実習	学内実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習	早島支援 学校見学
第2週								
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日
午前	午後	午前	午後	終日	午前	午後	午前	午後
小児科外来	A型通園	小児科外来	A型通園	学内実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習 反省会	反省会

3. 看護臨床実習の目的・目標

大学での臨床実習の目的・目標を下記に列挙する。

1) 看護臨床実習の目的

1. 病院及び病院関連施設の組織、機能を理解する。
2. さまざまな健康レベルにある人々の心身の状態・健康問題について理解を深める。
3. 看護学概論，学校看護学演習，養護学概論，学校保健，学校救急処置，学校救急処置演習，解剖学・生理学，免疫学，薬理概論等で学んだことを，看護臨床実習を通してより深める。
4. 保健・医療などの分野で働く人々の役割を理解し，各職種が連携して活動することの必要性を理解し，医療や看護が行われる過程，看護技術，援助方法，保健指導，人間関係等について学ぶ。
5. 対象者とのふれあいを体験し，よりよいコミュニケーションを体験し，人に対する尊敬の気持ちをもつ。
6. 看護の対象者である入院患者の療養生活，療養環境を理解する。
これらを通して養護教諭としての学校保健活動を遂行できる能力を養う。

2) 看護臨床実習の目標

これまでに教育課程に基づいて学習した，知識や技術を統合し，さまざまな臨床場面において保健医療活動の実際を体験し，養護教諭として必要な能力を養うことを目標とする。

1. 臨床で実習することにより，医学等の知識・技術を深める。
2. 基礎的看護能力を習得する。
3. 病院の組織や運営について理解し，医療チームの構成と各職種の役割を認識する。
4. 病院における人間関係について学ぶ。
5. 学校と病院との連携の在り方や方法を通して，学校および養護教諭が果たす役割を学ぶ。

以上のような目的および目標を掲げて実習に臨んでいるが，2週間という短い期間の中で，しかも特色の異なる病院で全ての実習生がこの目標を十分に達成できているかどうかは今後の課題として残っている。

5. 看護臨床実習の事前・事後指導

1) 事前指導

(1) 事前指導 -1-

事前指導として以下の内容を指導している。

1. 臨床実習の目的，目標
2. 各病院の概要把握と実習内容

3. 学内での復習（バイタルサイン測定、移乗・移動動作、疾患や検査の理解他）
4. 先輩の実習からの学び
5. 実習病院事前訪問

実習は3年生後期実施であるため、ほとんどの学生は養護実習を終了している。しかし、学校という教育現場とは異なる医療現場での実習であるが故の不安や緊張感を持ちやすいと想定される。その為に事前指導では様々な工夫を行っている。

事前指導では実習目的や目標の確認と実習病院の概要を事前把握することにより、自己課題の明確化につながっている。そして、これまでに学習した医学や看護の基礎知識に関して病院ごとのメンバーでグループ学習を行うことにより、技術の修得へと繋げている。さらに技術の修得だけでなく、グループで学習することにより、グループごとのグループダイナミクスが発揮される効果が期待でき、より良い実習へと繋ぐことを期待している。

また先輩からの実習についての学びを取り入れることにより、イメージを膨らませることができ、実習の不安の軽減に役立っている。

(2) 事前指導 -2-

実習指導者による講義として以下の3講義を実施した

- | | |
|------------------|-----------|
| 「地域における病院の果たす役割」 | 総合病院看護部長 |
| 「病院における感染予防対策」 | 感染管理認定看護師 |
| 「実習生にのぞむこと」 | 臨床実習教育担当者 |

事前学習では直接実習病院の指導者から講義を受ける機会を設けている。現在は3病院の指導者からの講義を受けているが、これらは看護臨床実習のためだけでなく、養護教諭の専門性を発揮するための重要な視点が含まれており、有効な事前学習となっている。

2) 事後指導

事後指導では異なる5つの病院での学びを共有するために3年生による報告会を実施している（図1）。また、この報告会には次年度に実習する2年生も参加させている（図2）。



図1 看護臨床実習報告会の様子



図2 看護臨床実習報告会でのスライド

報告会に参加した2年生（Aさん）の学びより（一部抜粋）

病院で実習をすることが養護教諭にとってどのように役に立つかという事が今回の報告会で知ることができました。病院の医師や看護師から教わる内容は感染予防や医学的知識、体位変換など専門的ではあるけれど、養護教諭にとって必要な知識や技術を身に付けることができました。

また、養護教諭と看護師の資質とは似ている部分があり、人が厳正とても大切であることがわかりました。しかし、やさしいだけではだめで、きちんとした知識を持っている必要であるとの話が心に残りました。さらに、何気ない声掛けが安心感や闘病への意欲や勇気を与えるということ、そして言語コミュニケーションだけでなく非言語コミュニケーションについても改めて知ることができました。個々に応じたケアというのは同じ病気であってもライフステージに合わせた支援をすることであり、この視点は養護教諭としての支援も同じであると感じました。

報告会に参加した2年生（Bさん）の学びより（一部抜粋）

自分が実習に行く前に先輩の体験報告を聞く機会があり、どのような実習なのかよく理解できていなかったが、イメージがわき、すごく勉強になりました。先輩たちの報告を聞いて、多くのものが学べたが、特に印象に残っている3点を述べる。まず1点目は患者さんとのコミュニケーションをとることの大切さである。患者さんとコミュニケーションの人間性や特性はそれぞれ異なるので、その人に合わせた対応の仕方や目標を変えていく必要性を感じた。2点目は患者さんのすべてのことに対して援助をするのではなく、その人ができることは声掛けをすることから始めていくことが大切であることが分かった。できないと決めつけずに優しく見守ること、その人のできる力を信じて支援していくことの大切さを学んだ。3点目は当たり前に行えることの感謝の気持ちを持つという事だ。自分が健康で生活できていることに関して感謝の気持ちを持ち、健康である時にその意味をきちんと理解することがよりよく生きることにつながると考える。私が印象に残ったこの三つの学びを養護教諭の支援とつなげていけると学んだ。

また、事後学習としてそれぞれの学びのマップを作成し、改めて臨床実習の振り返りを行った（図3）。学生たちは臨床実習で体験したことを養護教諭への資質につなげていくことができていた。さらにメンバー全員の学びのみでなく、個人の実習を振り返り、その成果を報告書としてまとめ、2、3年生に配布した（図4）。



図3 養護教諭になるための看護臨床実習での学び

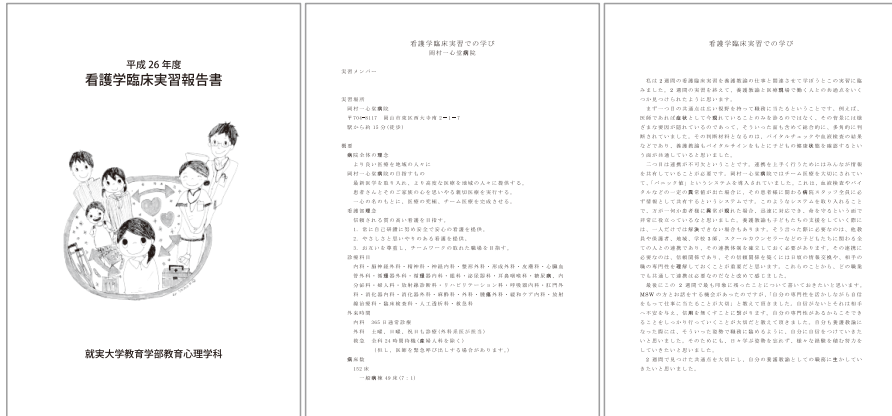


図4 看護臨床実習報告書

Ⅲ 学生の学び

A大学の看護臨床実習内容は5病院とも看護師、薬剤師、栄養士、放射線技師、理学療法士などの医療専門スタッフから患者に対するケアの見学が主な内容である。このような実習から学生たちは養護活動を展開していくために必要な【疾患の理解】を行い【感染予防】の【知識や技術】を学び取っていた。また養護教諭にとって必要不可欠な【コミュニケーション力】【観察】【連携】【アセスメント能力】【バイタルサイン測定】などを学び、【養

護教論との共通点】を見出しており、それらの経験を養護活動へと結び付けることができていた。

また、卒業した1期生が現場に出てから養護教論として働くなかで「心理学や看護学、病院実習は現在の仕事にとっても役に立っています」⁸⁾と述べているように養護活動の展開には病院実習での学びが非常に重要であることが示唆された。さらに、もう一人の卒業生は「大学3年生時の病院実習では、実習先の医師に『優しさは、実力がついて初めて本当の優しさとなる』と教わりました。その時はピンときませんでした。現場に出てみて児童の実態や特徴、背景をキチンと理解した上で、本当の優しさで接したいと思うようになりました」⁹⁾と述べているように単に知識や技術の修得だけでなく、日々患者さんの命と向き合っている医師の言葉を改めて理解し、児童生徒と向きあう視点を明確にすることができていた。

IV 今後の課題

A大学ではこれまでに2期生までしか看護臨床実習を終えておらず、成果の検討は不十分であり、さまざまな課題が山積している。養護教論の看護臨床実習は、今後ますます増加していくであろう病気を抱える子どもとの関わりなどから小児病棟での実習がより効果的と考えられるが、小児病棟の閉鎖、小児患児の減少、感染予防の観点から非常に困難な現状がある。実習指導者からの評価の中に、日ごろは看護を目指す学生の指導をしているが、養護教論を目指す学生の教育的視点は私たちも学ばせてもらっているとの声をいただいた。今後、実習内容の再検討や指導者との調整を行い養護教論のための看護臨床実習の課題を明らかにしていくことが必要であると考えます。

引用文献

- 1) 岡田加奈子 (2013) 養護教論養成の今とこれから, 日本養護教論教育学会第21回学術集会抄録集, 40-41
- 2) 石原昌江・秋田光子 (1976) 養護教論の職務に関する研究－基本的機能について－, 学校保健研究, 18(1), 27-33
- 3) 小倉学 (1970) 養護教論－その専門性と機能－, 東山書房
- 4) 大串靖子 (1979) 看護実習に対する養護教論志望学生の意識－専門職基礎教育における看護学の一考察－, 保健の科学, 21, 43-46
- 5) 橋弥あかね, 梶村郁子 (2012) 養護教論養成課程における臨床実習の学びの分析, 大阪教育大学紀要, 61(1), 55-62
- 6) 橋弥あかね, 梶村郁子 (2014) 養護教論養成課程における臨床実習の感想文の分析, 大阪教育大学紀要, 62(2), 23-30
- 7) 佐藤秀子, 大川尚子, 森川英子, 井澤昌子 (2007) 養護教論養成課程における看護臨床実習の意義, 関西女子短期大学紀要, 17, 49-54

- 8) 山陽新聞, 「岡山の大学へ行こう」平成27年9月27日掲載
- 9) 就実通信, Vol.28